

25年11月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成25年 10月20日～ 11月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
入荷動向	国産材	△ 8.3	8.3	8.3
	外材	6.3	6.3	△ 6.3
在庫動向	国産材	△ 33.3	△ 16.7	△ 16.7
	外材	0.0	0.0	0.0

ラミナの入荷は国産材は11月は減少、12、1月はやや増加、外材は11、12月のやや増加が1月にはやや減少に。
在庫は国産材は減少傾向で推移、外材は横ばいで推移。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/11月	12月	26/1月
国産材	35.7	50.0	42.9
欧州材	35.7	14.3	0.0
その他	25.0	50.0	25.0

ラミナ購入価格は国産材は強含みないし強保合で推移、欧州材は11、12月の強含みないし強保合が1月には横ばいに。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き) ・正常な入荷量。入荷遅れ残が減った。在庫も正常。
 ・スギ、ヒノキ原木は不足気味。国産材ラミナの入荷少なく、引き合い強いため在庫減。
 ・夏場例年と異なり入荷順調であった。在庫は生産に比べ入荷が上回る状況が予想される。
 ・スギ、SPF、WWの入が増加。特にスギの物件多く在庫少ない。物件毎の仕入れと一部住宅メーカーの見込み在庫。
 ・入荷は価格が上がり集めにくい状況になりそうです。
 ・県内、道内共に天候悪い、森林整備に作業員従事し伐採の人手不足等のためラミナ入荷状況悪い。
 11月のラミナ在庫は過去最少、12月中旬まではこの状態続きそう。
 (ラミナ価格動向)
 ・為替の影響もあり、入荷ラミナの高値続く。
 ・国産材ラミナは引き合い強く価格上昇。
 ・円安も手伝って非常に高い。製品価格下落気味で非常に苦しい状況。
 ・スギは横ばい、ヒノキは上昇気味。WW増えているがやや上昇。
 ・為替が円安のため円買いには不利な状態です。
 ・原木不足でラミナ価格かなり上昇、製品価格に転嫁厳しくこれ以上ラミナ価格高くしたくない。

25年11月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
生産動向	国産材	41.7	50.0	33.3
	WW集成管柱	10.0	20.0	10.0
	RW集成平角	△ 7.1	7.1	0.0
	米マツ集成平角	50.0	50.0	50.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	7.1	14.3	0.0
	WW集成管柱	△ 10.0	0.0	10.0
	RW集成平角	7.1	7.1	7.1
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

生産は国産材、WW集成管柱及び米マツ集成平角は増加傾向で推移、RW集成平角は11月のやや減少が12月のやや増加を経て1月には横ばいに。

出荷は国産材は11、12月のやや増加が、1月は横ばいに、WW集成管柱が11月の減少12月の横ばいを経て1月には増加に、RW集成平角はやや増加傾向で推移、米マツ集成平角は横ばいで推移。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	25/11月	12月	26/1月
スギ集成管柱	7.1	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	25.0	25.0	50.0
ヒノキ集成土台	50.0	50.0	50.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	12.5
WW集成管柱	△ 20.0	△ 10.0	0.0
RW集成平角	△ 7.1	△ 14.3	14.3
米マツ集成平角	25.0	25.0	25.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	50.0

出荷価格はスギ集成管柱は11月のプラスが12、1月は横ばいに、ヒノキ集成柱、集成土台は強含みないし強保合で推移、カラマツ集成土台11、12月の横ばいが1月にはやや強保合、WW集成管柱及びRW集成平角は11、12月のマイナスが1月にはプラスないし横ばいに、米マツ集成平角は強保合で推移、米ヒバ土台は横ばいで推移、。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

- ・RW平角の生産量を前月比10%増やす。前月末時点での注文残が増えた。
- ・国産材は木材利用ポイントの関係で荷動き好調。
- ・夏場減少傾向であったが、年内は期待できないとの予想もある。出荷は夏場を境に急激に降下、外材完成品に取られた感がある。
- ・生産はスギ管柱増、WWは管柱より2×4向け梁と在来向け梁が増、RWはSPF代用として2×4向け立枠・梁として出しているが在来向け梁としての需要もある。米マツは在来向け梁、大断面の大型木造物件が増。米ヒバは土台及び一部住宅メーカーのバルコニー、玄関ポーチとして出荷。スギ構造用集成材は一部メーカーの150角、150×300梁として増加。
- ・生産は国産材も外材も発注が多くなりフル生産している。出荷は来年までは多くの発注がくる予定でず。荷動きもなかり良い状態です。
- ・木材利用ポイント、地域型ブランド化事業によりカラマツAQ土台、スギEW柱等の引合旺盛。全体的品薄感もありフル生産続く。加えて非住宅物件も増加しておりカラマツ中断面の生産量も増加傾向。新規需要もあり原料事情や生産キャパシティ限定され需要に応じきれず 出荷待ちの状況続く

(構造用集成材出荷価格動向)

- ・前月と異なり低価格の話がトーンダウン、下げ止まり感あり。
- ・原材料の価格上昇に伴い製品価格上昇、原材料の価格分も転嫁できていない。
- ・夏場の需要下落で価格も急激に下落。原材料コストアップに伴い価格を戻したい。
- ・ヒノキ集成柱は一部物件でプレカット部材として加工して出荷しているが上昇気味。
- ・前回と同様。
- ・国産材製品堅調な引合の中、原料不足が表面化し原料値上がりは避けられない。競合製品とのバランスもあるがどこまで耐えられるか？。大幅な値上げであれば時期を見て製品価格に転嫁せざるを得